

# 畜産クラスター協議会実態調査の結果 (暫定版)

平成29年9月  
農林水産省畜産企画課

- 調査時期:平成29年5月～6月
- 調査方法:都道府県を通じて協議会に調査票記入を依頼

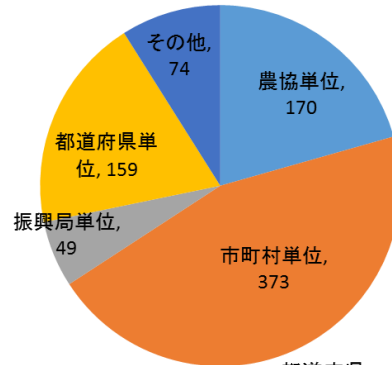
# 1 畜産クラスター協議会数(設立数・範囲・事務局)

## 【畜産クラスター協議会数】

- 全国で825の畜産クラスター協議会が設立。
- 都道府県別では、北海道(106)、鹿児島県(53)、栃木県(40)、岩手県(36)、千葉県(32)の順で多く設立。

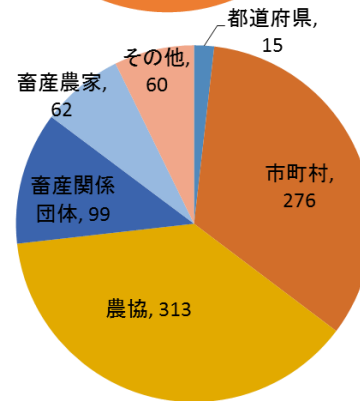
## 【協議会の地域の範囲】

- 協議会の地域の範囲は「市町村単位」が373協議会で全体の4割強、「農協単位」が170協議会で全体の2割、「都道府県単位」が159協議会で全体の2割を占める。



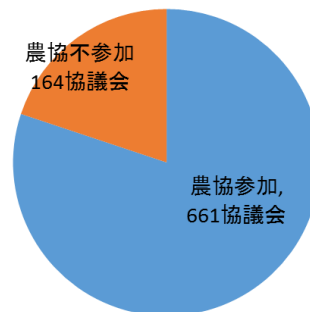
## 【協議会の事務局】

- 協議会事務局は「農協」が313協議会で全体の4割、「市町村」が276協議会で全体の3割を担っており、これら2つの協議会で全体の7割を占める。

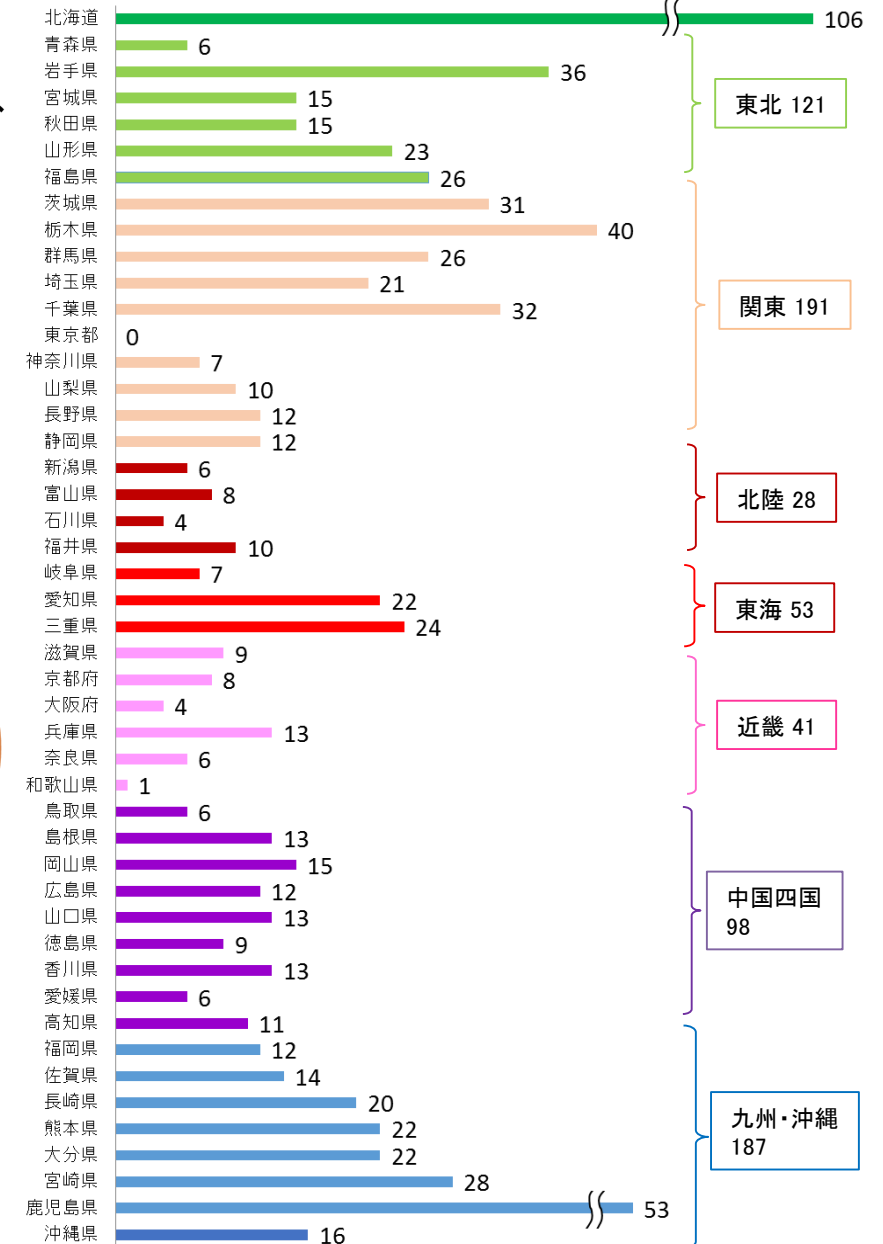


## 【協議会への農協の参加状況】

- 農協が参加している協議会は661協議会であり、全体の8割を占める。



## 畜産クラスター協議会設立数



## 2 各協議会の対象畜種

複数の畜種を対象とする協議会と単一畜種を対象とする（他の畜種を対象としていない）協議会は、概ね半数ずつ。

### 【酪農】

- 「酪農」を対象とする協議会数は、395(48%)。  
（「酪農単一」の協議会数は、114(14%)）

### 【肉用牛】

- 肉用牛を対象とする協議会数は、469(57%)。  
うち、

- ・「繁殖」を対象とする協議会数は、370(45%)。  
（「繁殖単一」の協議会数は、39(5%)）
- ・「肥育」を対象とする協議会数は、346(42%)。  
（「肥育単一」の協議会数は、19(2%)）
- ・「一貫」を対象とする協議会数は、257(31%)。  
（「一貫単一」の協議会数は、7(1%)）

### 【養豚】

- 「養豚」を対象とする協議会数は、241(29%)。  
（「養豚単一」の協議会数は、93(11%)）

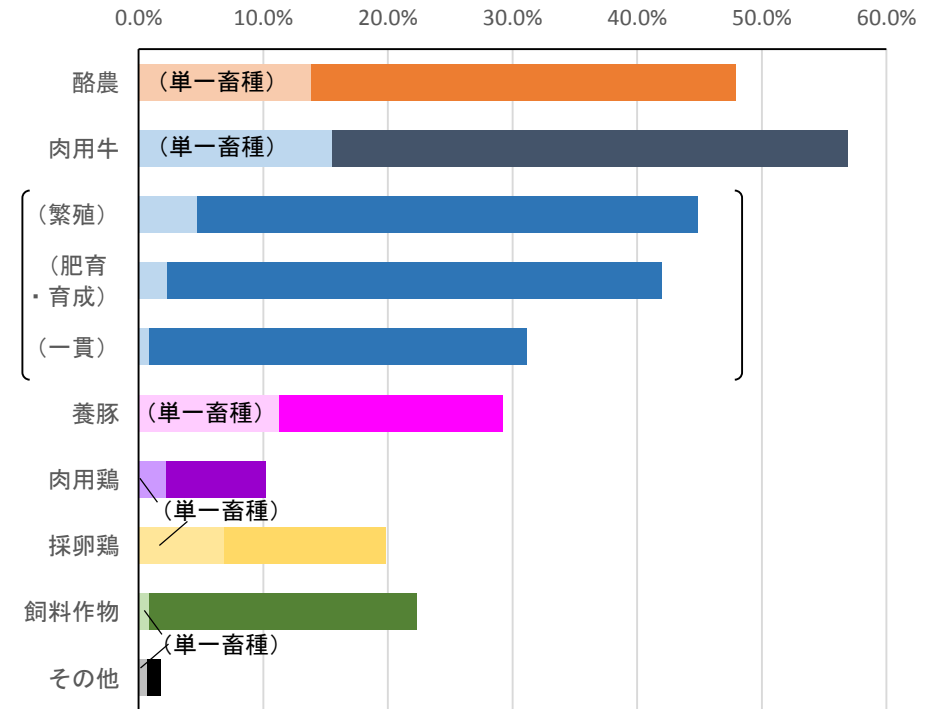
### 【養鶏】

- 「肉用鶏」を対象とする協議会数は、84(10%)。  
（「肉用鶏単一」の協議会数は、18(2%)）
- 「採卵鶏」を対象とする協議会数は、164(20%)。  
（「採卵鶏単一」の協議会数は、57(7%)）

### 【飼料作物】

- 飼料作物を対象とする協議会数は、184(22%)  
（「飼料作物単一」の協議会数は、7(1%)）

協議会全体に占める対象畜種等の割合



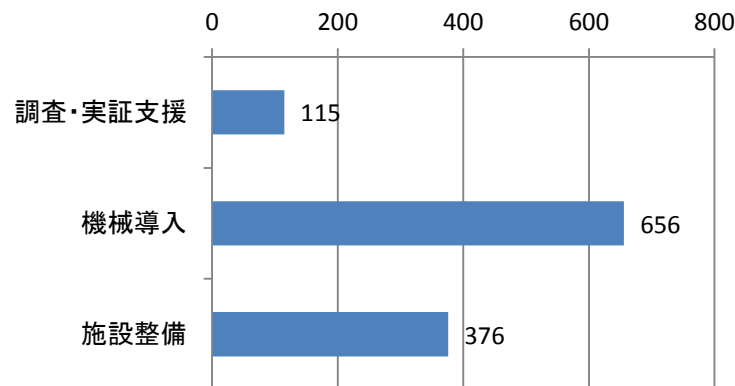
(参考)ブロック別の状況

	協議会数	対象としている畜種等の割合(上位3つ)					
		1位		2位		3位	
北海道	106	酪農	94%	肉用牛	85%	飼料作物	40%
東北	121	肉用牛	63%	酪農	57%	養豚	33%
関東	191	酪農	47%	肉用牛	38%	養豚	29%
北陸	28	肉用牛	68%	酪農	57%	採卵鶏	39%
東海	53	採卵鶏	38%	酪農	34%	肉用牛・養豚	32%
近畿	41	肉用牛	66%	酪農	51%	採卵鶏	34%
中四	98	肉用牛	54%	酪農	42%	飼料作物	24%
九州・沖縄	187	肉用牛	61%	養豚	32%	酪農	21%

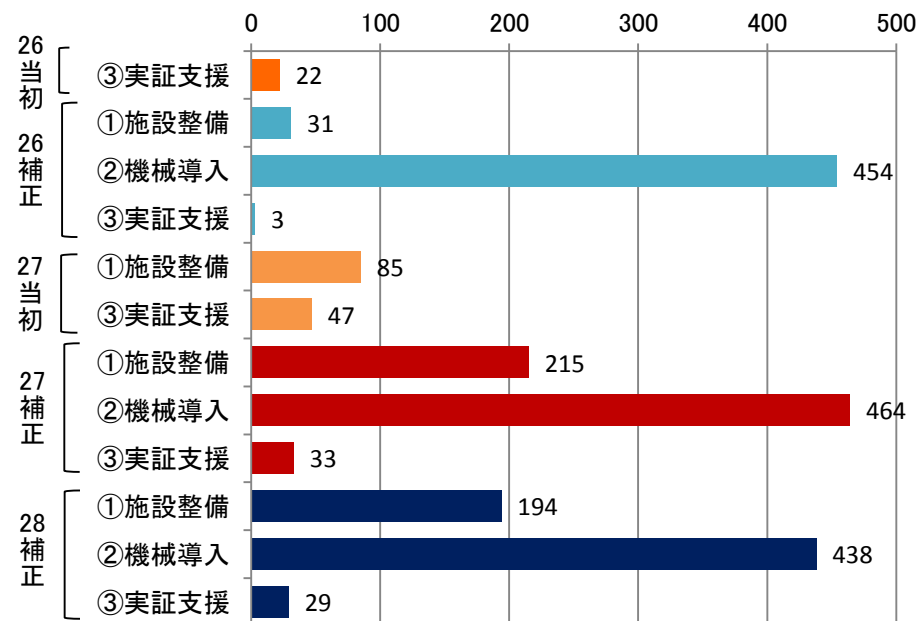
### 3 補助事業の活用状況

これまでに畜産クラスター関連補助事業を活用した協議会数は、

- 「実証支援」への取組は115協議会(14%)。
- 「機械導入」への取組は656協議会(80%)。
- 「施設整備」への取組は376協議会(46%)。



(補助事業の活用状況(予算措置別状況))

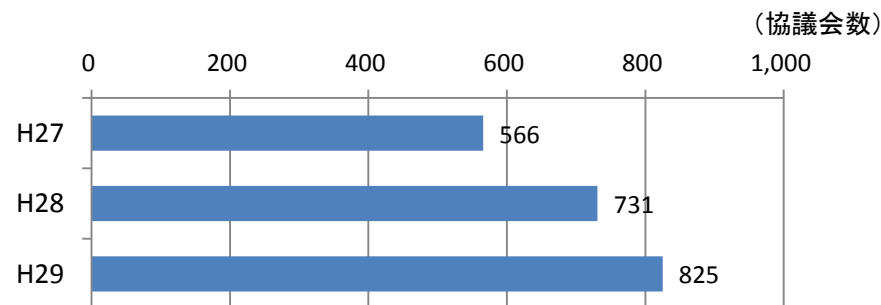


※ただし、28補正は執行途中

### 4 3年間の推移

【畜産クラスター協議会の設立数】

- 畜産クラスター協議会の設立数は前年の1.1倍、前々年の1.5倍に増加。



【中心的経営体数】

- 畜産クラスター協議会に参加する中心的経営体数は前年の1.1倍、前々年の1.5倍に増加。

